

研修から見える国語科の授業改善の視点

～ やはり、教材分析が一番の決め手となります ～

1 はじめに

国語科の基本研修では、学習指導案の検討・改善、模擬授業を中心に講座を組み立ててきました。経験者研修Ⅰでは、中学校・高等学校合同の研修を行い、評価問題の作成と評価問題を活用した授業づくりということを中心に講座を行いました。これらの研修を通して、先生方が授業改善における自己の課題や解決に向けた具体策についての視点を明確にし、各学校で実践していただくようにしています。ここでは、経験者研修Ⅰと経験者研修Ⅱの感想を基に、「授業改善の視点」について述べます。

2 研修の感想から見える課題と授業改善の視点

模擬授業と評価問題作成に対する研修者の感想には、次のようなものがありました。

(1) 模擬授業を通して

- 先生方と教材文について話し合い、教材観・指導観を深める場が持てたことは勉強になった。
- 改めて、教材研究、言葉にこだわることの大切さを感じることができた。
- 授業をよりよいものにするために、教員同士の模擬授業は有効であることと教材研究の大切さを実感させられた。
- ざん新たな視点で教材研究をされている先生方に出会うことができ、刺激になった。
- 模擬授業は、本当に勉強になった。教材を分析し、研究する、そして、その教材で生徒にどのような力を付けさせたいのか本気になって考えることができた。
- 教材を自分自身でしっかり読むことからやっていきたいと思った。

いずれも模擬授業という場を設定し、お互いが意見を交換し合い刺激し合うことを通して教材研究・指導法の研究が深まり、先生方の授業に対する意欲の活性化がみられます。

各学校においてこのような取組みが日常的・定期的に行われることで、授業が改善されていくものです。

(2) 評価問題の作成を通して

- 他の先生の作問についての考えを伺って、どんな力を測りたいかという視点を持つことができた。
- 同じ問題でも条件の出し方によって全く違った問題になるということが分かった。
- 班の先生と意見交換をすることで、自分の教材解釈を確認することができた。自分には気付かなかった読みにも気付くことができた。
- 教材研究の大切さを再度実感した。教材を通して生徒にどのような力を付けさせたいのか意識しながら問題を設定していくことを忘れずに取り組んでいきたい。

評価問題の作成は、中・高等学校では定期的に行われています。評価問題は、

① **教材の分析、生徒の実態分析** (生徒にどのような力を付けさせたいのか。)

② **問題作成** (生徒に身に付けさせたい力が定着したかを見るのに、どのような問題構成、問い方が適切なのか。)

③ **実施**

④ **採点、結果分析** (問題の量や構成が適切だったか。生徒に指導すべきところ、生徒の理解が十分なところはどこか。)

⑤ **事後指導** (結果分析から得られた対処法を考慮しているか。)

という流れを考慮して作成されます。

教材研究の深化、評価問題を考慮した授業が実践され、さらに作問技術の向上が図られることで、「テスト」は「生徒の力を適切に評価する問題」に変容し、教師が次にとるべき指導方法や方向性が見えてくるものです。

3 おわりに

国語科は、教材文を通して、児童生徒に、どのような力を身に付けさせたいかを明確にして授業をすることが最も大切です。確実に力を身に付けさせていくための授業改善の第一歩は、教材分析です。

教材分析は、授業充実のためには当然必要となることです。しかし、研修を通して改めてそのことに気付かれる先生方も多いようです。特に、教材文を教師が何度も読み、自分なりの解釈を持ち、できればほかの先生方と教材分析を試みることを最も大切だと考えます。何度も教材文を読み返すうちに、今まで教師自身が気付かなかった言葉や表現に気付き、それらを授業展開の中心にすえ、発問や板書、机間指導、指名等に生かしていくこともできるようになります。そして、言葉や表現に注意を払うことができる児童生徒を育てることができると素晴らしいと思います。教材文とじっくり向き合う時間と場の確保に、是非努めてほしいと思います。

最後に模擬授業の感想から、模擬授業に取り組むことの大切さも感じ取っていただきたいと思います。

- 生徒役をすることにより、実際に生徒がどのようなところでつまづくのかよく見えてきた。
- 模擬授業をやってみると、自分の発問がいかに分かづらいのかがよく分かった。発問の重要性が分かった。